

DV・小児のマルトリートメントについて、すぐに相談できるシステム

2019年5月23日(木) モーニングレクチャー

小児科 長石純一



はじめに

子ども虐待は、その通告例が増加し、「普通の」外来担当医が**発見**と**初期対応**に関する知識を持っていなければならない問題となってきた。

小児精神医学や臨床心理学など、心理に関する特別の知識や学習を考えなくても、外来担当医の日常の臨床の中で、子ども虐待を発見し初期対応することが、**子ども虐待診療の入り口**となる。

→ 子どもは**話せない**。最初で**最後**かも。

子ども虐待の現状

子ども虐待： 厚生労働省による行政説明資料(H31児相長研修)
推定発生数 **133778件**/年間(平成29年度)
虐待死(心中を除く) **77人(49人)**/年間(平成30年度)

当院での小児虐待事例： 約23件/年間(昨年度)
(母子支援が13件)

子ども虐待には「犯罪」という側面もあり、警察への通報が必要と思われるケースもあるが、原則的には児童相談所などを中心とした福祉的援助をメインに据えた関与が、子どもの救済に結びつくことが多い。

子ども虐待の検証

子ども虐待： 厚生労働省による行政説明資料（H30児相長研修）
推定発生数 **133778件**/年間（平成29年度）

心理的虐待 > 身体的虐待 > ネグレクト

特に近年、配偶者に対する暴力（**面前DV**）が増加

虐待死（心中を除く） **77人（49人）**/年間（平成30年度）

H15-28年の心中以外の虐待死 658例 **727人**

0日児：18.6% **0歳児**：47.5%（H30は65%）

3歳以下：77.0%

加害者 **実母**：55.6%

予期しない妊娠/計画しない妊娠：25%（H30は49%）

家庭における地域社会との接触がほぼない：39.5%

Child maltreatment

1: Child abuse

子どもに対する有害な行為、よけいなことをする。
暴行、性的虐待など。

2: Child neglect

子どもにとって必要なことをしない。不作為。
体重増加不良、言語発達障害など。

Point: 加害者の動機の有無は関係なく、子どもの健康と安全が危機的状況にある。

目的

加害者の告発ではなく、子どもと家族への**援助**が目的。医学的には「疑い」のレベルではあっても、子どもと家族への援助のために、小児へのマルチトリートメントを**早期発見**し、**初期対応**をとる。

診察医が個人的に対応するのではなく、病院全体が責任者となり、マルチトリートメントプロジェクトとして対応、**早期支援・継続支援**を行う。

DV・マルトリートメント相談の流れ

外来診察医あるいは看護師、受付他 → 変だぞ？

必要なら、もう1人の当直医にも相談(複数で判断を)

リーダーあるいはサブリーダーに問い合わせ(すぐに)

●入院措置が必要かどうか判断をする

必要な科に受診もしくは入院して関与が開始

●地域関係者とのカンファレンス(つなげる)

→ 必要に応じてDVマルトリートメント委員会で事例評価

子ども虐待における身体的外傷の診断学

<事故と虐待の鑑別>

親が申告するヒストリーの妥当性の検討。

単独ではなく、複数の関係者で検討し判断する。

記録：言葉をそのままに記載（発言者も） 同伴者の有無
デジカメ等も使用して画像所見も記録

<グレーゾーンの扱い>

帰宅させるかどうか迷ったときには帰さないのが基本。

Shaken baby syndrome

<三主徴>

- 1: 網膜出血(揺さぶられると発生)
 - 2: 硬膜下出血またはクモ膜下出血などの頭蓋内出血
 - 3: 体表の外傷が軽微か無いこと
- 通常の高い高いやだっこなどでは、発生しない。
 - 乳児に多いが年長の子どもにも報告例がある。
 - 重症では、直後からのけいれんや呼吸停止もあるが、飲みが悪い、嘔吐、無気力などの症状の場合もある。

2y以下の乳幼児の骨折

- 虐待による骨折の90%は2y以下、80%は1y6m以下
- 自然外力による骨折の85%以上は5y以上
- 1y未満の骨折では、2週間後のXp再撮影を
(骨膜反応のチェック)

特異度の高い骨折(新旧混在、多発、骨幹端骨折など)
全身骨の撮影(胸部Xpと胸郭Xp)

虐待も可能性として考えなければいけない場合

- 外傷、火傷、骨折、誤飲などが、同時に複数あるいは反復して出現

不潔な皮膚状況、体重増加不良、低身長など

受診時に死亡状態(乳幼児突然死症候群も含む)

- 著しい過食・異食、過剰で無差別な対人接近

加減のない荒っぽい・乱暴な言動

単独での非行の反復

診断の目的

加害者の告発ではなく、**子どもと家族への援助**

マルトリートメント(子どもへの不適切な扱い)の
再発や深刻化の予防

同胞の死や、次世代への繰り返しの予防